



http://www17.ocn.ne.jp/~white_g/index2-2f.html

有限会社ホワイトランドリー

- 所在地：日田市刃連町605
- TEL：0973-23-1537
- 事業内容：ホテルや旅館のシーツ、ゆかた、枕カバー、各種ユニホームなどのリネン類のレンタル、クリーニング
- 雇用人数：健常者17人 障がい者22人
- 沿革：1973年 設立
1981年 第二工場設立
1989年 第三工場建設



人間はみな平等

「鋭きも鈍きもともに捨てがたし、錐と槌とを使い分けねば」

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

知的障がい者 20 人、身体障がい者 2 人（肢体不自由 1 人、体幹機能障がい 1 人）。20 歳代から 50 歳代まで。これまで結婚のためと体調が悪くなり依願退職した以外は雇用が続いている。

■ どんな仕事をしているか

工場内の仕事で、回収されてきたリネン類の仕分け、洗濯機への投入、洗い終わったリネン類をプレス機まで運ぶ、広げてプレス機にかける、仕上がったシーツ類をたたむなどの作業を健常者とともに分担している。

上記の各作業ができるようになった障がい者は、気分をリフレッシュするために、一日数回、持ち場を交代する。



収集したリネンを分類する作業

障がい者を雇用して良かった点

職場全体の操業状況を確認できるように、工場内の 2 階部分に廊下を設置。障がい者の健康状況を確認する目的だったが、他の社員の作業も観察でき作業手順の改善につながった。また見学者の通路にも活用できた。

乾燥機などにパトライトを設置。人体などが接触すると、センサーが感知、機械が自動停止すると同時にライトが点滅回転する。障がい者だけでなく、一般従業員の安全性も向上した。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

生産部課長 宇野 ちえみさん



いろいろな障がい、症状の方と働くことで、それぞれの特性が分かってきました。入社して 3 カ月くらいはマンツーマンで教えますが、覚えたらローテーションの要員に入れるほど上達します。保護者との連携も大切にしています。

■ 現職障がい者

主任 高橋 和也さん



管理職も務めている。入社 20 年で、ボイラ一点火や洗濯機の起動、現場の指揮を任される存在。「目標は自分自身の向上心を忘れないことです。」

■ 現職障がい者

上原 初美さん



工場内でプレス機にシーツや枕カバーを投入する係。「製品がきれいに仕上がるよう、しみやしわを入れないことに気を付けています。皆さんに迷惑をかけないように頑張っています。」

プロセス



■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

会社設立間もないころ、知的障がい者団体の「働く場所を作ってほしい」という切実な願いを知ったことがきっかけ。

大学教授の講演を聞いたり、知的障がい者を雇用している企業を見学して、検討を重ね、社員への事前説明をしてから障がい者雇用に踏み切った。



■ どんな問題点にぶつかったか

- ① 障がい者が工場内でてんかんの発作を起こしたことがあり、病院を訪ねて対処方法を学ぶ必要があった。
- ② 自分の気持ちを上手に表現できない知的障がい者と、健常者が口論になることがあった。
- ③ 遠隔地からの通勤者が通勤途上でいじめに会う。地域で障がい者について理解してもらう必要性を感じた。



■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

「職場定着推進チーム」を保護者代表 3 人と会社代表 3 人で構成し、保護者から率直な意見を聞くことで職場環境改善、雇用継続につなげている。

会社のグループで発足した「障がい者だけの全員教育の会」では、社内での安全教育のほか、あいさつ、健康管理、金銭の使い方など、生活全般について学び、障がい者からの意見を聞く機会にしている。

また、保護者を対象にした「ホワイト父母の会」は、家族や会社の支援体制や、地域へ障がい者理解を求めめる方法などを話し合っている。



プレスの終わったシーツをたたむ作業

社内環境



地域と交流する「ホワイト祭り」を開催。取引銀行や運送会社の社員などがボランティアで運営し、地域の老人会と社従業員が参加。

定年退職を迎えても、生活支援が引き続き必要な障がい者の対策として、NPO 法人想愛会を作り、就労支援施設とケアホームを開設した。

定年退職者のほか、就職が困難な障がい者が軽作業を行い、就労への訓練機関として活用できるような施設にする予定。